



「浪華の魁」 長谷川貞信（二世）画 提供：大阪府立中之島図書館

秋の文化講演会

三都の浮世絵版画

江戸時代に最も庶民の間で愛された絵画は浮世絵です。17世紀に江戸に菱川師宣があらわれ、浮世絵版画の中心は江戸で展開されました。一方、上方では、京都で吉田半兵衛や西川祐信が活躍をはじめ、18世紀終わりごろ大坂で流光斎如圭（りゅうこうさいじょけい）が登場し、天保期頃からは専門の絵師が登場し明治時代ごろまで盛んに版行されました。上方絵は、流光斎から最後の芳瀧に至るまで、役者を美化した江戸に対し、写實的に描いた点に特徴があるとされています。しかし、上方絵といっても、大坂は原則として錦絵である一方、京都では合羽摺が主流であるなど、いくつかの相違がありました。今回の講演会では、三都（大坂・京・江戸）を中心に浮世絵版画の特徴について、大和文華館館長・あべのハルカス館長の浅野秀剛さんにお話ししていただきます。また、関連蔵書リストを作成し、1階展示コーナーに10月24日（火曜日）から11月5日（日曜日）まで配架します。



講師 **浅野 秀剛** さん（大和文華館館長・あべのハルカス美術館館長）

日時 **11月3日（金曜日・祝日） 14時から15時30分**
（開場 13時30分から）

会場 **大阪府立中央図書館2階大会議室**

定員 **70名（先着順, 申込不要, 受講無料）**

講演概要 「三都の浮世絵版画」

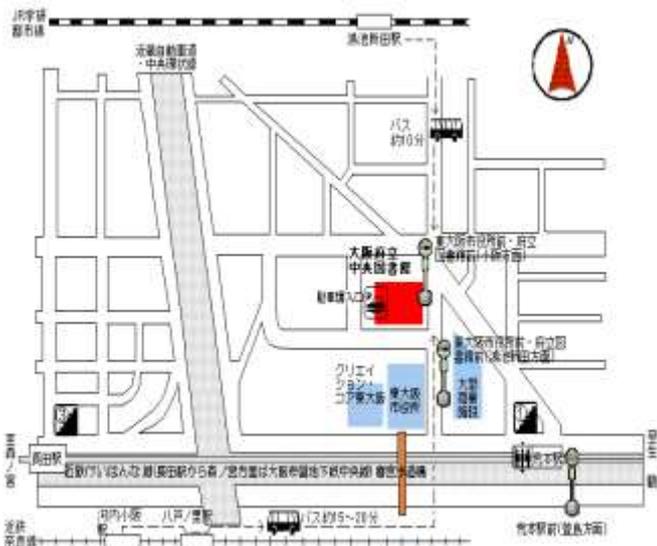
浮世絵版画は江戸で作られたもの（江戸絵ともいう）が圧倒的に多いのですが、京都や大坂でも制作されました。上方の錦絵の祖として知られている流光斎如圭が役者絵を初めて制作したのは寛政三年（一七九一）ですが、丁寧に見ていくと、天和三年（一六八三）以来、それ以前に作られた一枚絵もパラパラと伝存しています。また、一口に上方絵といっても、京都と大坂を一括りに論じることはできないということが近年少しずつ明らかになってきました。大坂では流光斎が寛政三年に役者絵を制作、少し遅れて京都では有楽斎長秀も役者絵の刊行を開始します。しかし、大坂は原則として錦絵でしたが、京都では合羽摺が主流で、その相違は幕末まで続きます。江戸はすべての多色摺版画が錦絵であり、京都の合羽摺が際立ちます。そして、天保改革の役者絵禁止の後、弘化四年（一八四七）頃の復活に際し、大坂では中判が専ら行なわれ、その後、明治前期に廃絶するまでその状態が続いたことも特筆に値します。すなわち、幕末・明治の役者絵は、江戸の大判、大坂の中判という時代が続いたのです。

本講演では、三都の浮世絵版画の違いと、それぞれの作品の魅力をお伝えできたらと思っています。

【講師プロフィール】 浅野 秀剛（あさの しゅうこう）

1950年生まれ。千葉市美術館学芸課長を経て、現在は大和文華館館長、あべのハルカス美術館館長。主な著書に、『錦絵を読む』山川出版社、『菱川師宣と浮世絵の黎明』東京大学出版会、『浮世絵は語る』講談社現代新書、『浮世絵ギャラリー 歌麿の風流』小学館、『浮世絵細見』講談社選書メチエ、など。

※講演会の参加に際して、障がい等の状況により、配慮が必要な方は事前にお知らせください。



【アクセス】

- 近鉄けいはんな線（地下鉄中央線乗り入れ）
荒本駅下車（1番出口）北西へ約400M
長田駅下車（3番出口）北東へ約1000M
東大阪市役所北側

問い合わせ先

大阪府立中央図書館 生涯学習事業担当

〒577-0011

東大阪市荒本北1-2-1

TEL 06(6745)0170

FAX 06(6745)0262

【駐車場】

- 有料地下駐車場：120台/入庫後15分間は無料（平日は100円/60分、最大料金500円、土日祝祭日は150円/60分、最大料金600円）
- 詳しくは、次のホームページをご覧ください。

<https://www.library.pref.osaka.jp/site/central/>